設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:17（68%）　②:7（28%）　③:1（4%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:19（76%）　②:5（20%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（4%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:14（56%）　②:11（44%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:17（68%）　②:7（28%）　③:1（4%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:10（40%）　②:14（56%）　③:1（40%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:18（72%）　②:7（28%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:22（88%）　②:3（12%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:15（60%）　②:8（32%）　③:2（8%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:14（56%）　②:11（44%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:15（60%）　②:10（40%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　5（20%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　16（64%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　2（8%）・・・「講座内でのシラバスの調整」「授業に関連する書籍を 20 冊読んだ」

未回答：　4（16%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　9（36%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　16（64%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　3（12%）・・・「講座内での学生情報の共有」「九州地区大学一般教育研究協議会の参加」「関連書籍をさらに読む」

未回答：　4（16%）

設問 16　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　　回答：8 クラス（順不同）

[1] 特にないが，実施見学を行い，高評価だった.

[2] この授業は学校教育基礎専攻担当教員のオムニバス形式による授業である。昨年度は、それぞれの担当教員が指導した内容の総括として、授業の最後の 2 回を使って学生個人個人にプレゼンテーションをさせた。テーマを各自設定させ、プレゼンテーションの準備も各自で行わせた。発表当日は一人当たり 5 分の発表であったが、発表時間が短く、テーマ設定や準備状況に個人差が見られ、十分に授業全体の総括としての学習状況の確認ができなかったように感じた。そこで今年度は、

[3] 前年度の授業評価で特に改善を要する大きな課題がなかったため、前年度の水準を下回らないように行った。授業科目の特質上、受講する学生のレベルを把握しながら進める必要があるため、その点の把握を怠らないようにして授業を進めた。

[4] 例年の傾向として、初等教育コースの学生と中学校教育コースの学生が固まってしまい２つのグループが形成され、交流が十分に行われないことが挙げられた。そこで、本年度は節目節目で、くじによってグループ構成員を決めて、初等・中学校、男女がいろいろと交じり合うように努めた。

[5] ４年間を見通し，専門的な学修をする意義や必要性を説明するよう心がけた。

[6] 今年度は文章表現に関わる講義において，パラグラフライティングを積極的に取り入れた。また，文章のわかりやすさを，学生同士で相互評価することも取り入れてみた。いずれも，昨年度より充実した授業になったと感じている。

[7] 学生同士のディスカッションも含めたパラグラフライティングを導入し，ワークシートを成績評価物とした。

[8] 昨年度より、さらに学生の理解度に応じた授業内容とするため、映像学習を導入した。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　14 クラス（順不同）

[1] 今年度は、クラス 16 名の中に、非常に個性の強い学生が 3 名おり、彼らへの対処に悩みながらの授業進行であった。

当初、アクティブラーニングをもっと積極的に取り入れる予定であったが、それは、次のような理由であまり行えなかった。

個性の強い学生に対して、他の学生の中で一部、接触を回避しようとしたり、あるいは、接触が求められる場面で、かなり露骨に嫌がるようなしぐさが見られることがあったからである。また、「グループワーク」を取り入れるために、自由にグループ決めをしようとした際に、気を使う学生が、「先生、くじ引きで決めましょう」と言ったりしたことがあり、学生たちの中でも、個性の強い学生との対応に差がみられた。

教員としては、個性の強い学生をクラスの中で浮かせることなく、また、一方では、他の学生が余計な気を使ったりすることのないよう、なるべく平等に、しかし、各学生の性格や行動パターンにできる限り個別に配慮するような形で授業を進めていった。

他には、学内の安全衛生保健管理センターの医師に複数回相談に行き、どのような対応をすべきかなどの点でアドバイスをいただいた。また、年度当初の 1 カ月は、最も個性の強い学生 1 名から、大学教員に相談、連絡すべきことではないようなことまで連絡をもらい、自身も戸惑いが大きく、その点でもアドバイスをもらうほどであった。発達障害に関する文献・資料なども読んで、勉強を重ねた。

16 名中 3 名が強烈な個性、また、他にも数名、キャラの強い学生がおり、そうした学生たちをまとめるのには大変苦労した。シラバス通りに授業が進められなかったのは残念だが、すべての学生たちが、ひどく否定的な気分にならないよう、授業は進められたと考えている。

このようなクラス（授業）はどのようにすればうまくいくのか、アクティブラーニングを取り入れることの、ある種の難しさも含め、非常に勉強になった半年間であった。

[2] 本年度，学生支援部キャリア支援課からの支援を受けて「業界研究講座」を３回実施した。しかし，学生からは「入学してすぐは尚早」や「必要がない」等の意見があり，次年度も同様に続けるべきか検討が必要であった。

[3] 説明の仕方がより具体的にわかりやすくできると良かったと思う。

[4] 入学後および将来について，動機付けを強く考えさせた.

[5] 学生間によるレポートの相互評価（討論）や学内施設の見学など、これまで自分が担当した科目では行わなかった内容を積極的に盛り込んだことは評価できると考えるが、それらを十分に活用できたかどうかに今後の反省点がある。特に学生間の相互評価については、教員による評価も合わせて学生に公表し、学生の観点と教員の観点の違いなども交えて討論をすれば、より活発な議論ができたようにも思う。

[6] 今年度のセミナーは、三人のオムニバス形式でスタートしました。初めて担当したものにとっては、やはり手探りで進めた部分がありました。学生の反応を確かめながら、教材の難易度を定めていきました。

特筆すべき点として、「フィールドワーク」を「探訪」型にしたことがあげられます。それぞれの担当で、図書館、きよたけ歴史資料館、神社を課題としました。″

[7] 学生の意識や能力を高めることが主な目的のため、作業課題を多く設定し、能動的（アクティブ）に学ぶ事活動を以前から課している。

[8] 文章作成技術を育むところでは、課題を提出させてそれで終わりにするのではなく、その課題に修正点を見つけて再度提出させるようにした。この作業を通して、我々大人が何を要求しているのか多少なりとも学生に伝わったのではないかと考えている。

反省点として、学生に文章を書かせると「公的なデータを記述しない」、「項目を複数盛り込んで総花的に記述しようとする」といった傾向が見られることがわかった。学生の多くは文章を書くことを面倒くさがっていることが伺われる。そこで、「効率的に文章を書くための工夫」や「読者に興味を抱かせる文章とはどのようなものなのか」について、もっと授業の中で取り扱えるとよいだろう。″

[9] 大学生活を送るための概論的話を中心としたので，予習復習よりも発展学習を課すことが多くなってしまった。

[10] プレゼンテーションに必要な時間（テーマを考える，資料収集をする，資料をまとめる等）を十分にとる必要があり，授業内容の精選を再度行いたい。

[11] なぜこのような科目が大学の科目にあるのか不思議である．教師が専門的知識を発揮できないような科目で（つまり，その分野のアマチュアが），教育し評価するのは変だと思いませんか．

[12] 学生の自主的な学習を促し、グループで考えをまとめさせるまでを、うまく進行できた。一方、やる前から懸念してたことが、グループでの実施のため、グループ内での負担（頑張る学生だけが頑張り、意欲のない学生はほとんど参加しない）に不満を持った学生がいた。この状況に、どう対処するのがいいのか、私の中で結論が出ていない。

[13] ・評価できる点：

テクニカル・ライティングの授業における各回ごとに、グループディスカッションの時間を設けて、アクティブ・ラーニングの学習実施及び学生のコミュニケーション能力を向上させるため発表と討論を取り組んだ。

・反省すべき点：

①学生の理解度を速やかに把握し、シラバスに基づき授業内容の調整がうまくできなっかた。

②グループディスカッション時、各グループの発表と討論のため機器の準備が足りなっかた。

③各週提出すべき課題を未提出した学生に対して積極的に参加させる工夫が足りなかった。″

[14] さらなる簡素化（設問数の削減など）をのぞむ

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　23（92%）　　②いいえ：1　（4%）　　未回答：　1（4%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　14（56%）

②読んで理解する：　10（40%）

③自分の考えをまとめて話す：　22（88%）

④自分の考えを文章にまとめる：　21（84%）

⑤討論する：　4（16%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：2（8%）

⑦その他：　2（8%）　　「チームで行動する」「検索方法，研究倫理」

未回答：　1（4%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　19 クラス（順不同）

[1] アクティブラーニングを採用した。

[2] アクティブラーニングを活用した講義を行い，積極的なディスカッションを行った。

[3] 本科目では「大学生のための日本語表現トレーニング」という教材を使い、書く、聞く、読む、話す等のコミュニケーション能力を、アクティブラーニング手法も交えて行っている（4 コマ）。また、班ごとに分かれたディベートで、議論し説得する能力やプレゼンテーション能力等を養っている（3 コマ）。

[4] 上述したように、班ごとに1つのテーマを決め、ディスカッションによる意見交換を行い、コミュニケーションを行った。

[5] 実地見学（宮崎県水産試験場小林分場）で，かなり質問をさせて，質問の討議の勉強をさせた.

[6] グループディスカッションやグループ内，各個人で調べたことをパワーポイント等を使用し発表し，質疑・応答する。

[7] 他己紹介、として、ペアになった友人の出身地にある自慢できる観光名所を紹介する、ということを行った。

まず、ペアで、相手から聞き取りを行い、それを紙にまとめ、その後、それを全員の前で発表する、というものである。″

[8] 各グループごとに自ら設定した課題について文献・ヒアリング等を通じて調査研究し、発表した。

[9] 受講者の学習成果については、発表と提出を課しました。

「提出」というのは、調べたこと・発表したことをまとめるものです。

「発表」については、「相互評価方式」を取り入れました。それは、ただ担当者が発表するのではなく、聞く側には評価シートを渡して、よいところ・自分ならばこうするところを書いて、発表者にフィードバックするものです。

また調査も個別だけではなく、グループで活動することも加え、お互いコミュニケーションをとりながら、行動する課題を課しました。″

[10] 調べたことや自分の考えをまとめて書く能力の向上のため、調査スキル、思考スキル、文章作成スキルなどを育てる基礎的な演習を組んでいる。

[11] グループ活動をふんだんに取り入れることにした。パワーポイントを使用させて人前で自分のアイデアを発表させることにした。文章作成技術の向上については、学生側に次のような課題を見出すことができた。①世間一般で唱えられている意見や理論を文章に盛り込もうとしない（調べることを面倒くさがる）。②多数の項目を総花的に表面的に羅列したがる（1 つのことに原因究明・自身の経験との比較・自身の提言をするなどして深く掘り下げようとしない）。

[12] プレゼンテーションの実施とレポートの作成

[13] プレゼンテーション、ディスカッション、レポート提出等を適宜課した。

[14] 自己の関心にそったテーマを選び，資料収集，話し合い活動，プレゼンテーション資料の作成，プレゼンテーション，レポート提出などを課した。

[15] 一部でプレゼンテーション形式の授業を行った。また、小論文、電子メールなどのライティング演習を実施した。

[16] パラグラフライティング

就職用エントリーシート（履歴書）の作成″

[17] ①　論文作成後、グループ分け

②　グループメンバーの前で発表と討論

③　他メンバーの発表を聞いた後相互に評価″

[18] グループに分けて，各グループで一丸となりできる課題に取り組むように設定した.

[19] ・良好なコミュニケーションを図るための基本的姿勢について自己洞察を行いながら学ぶ授業を、非常勤講師を招聘して演習形式で実施した。

・パラグラフライティングの演習として、自分の考えをパラグラフを意識して文章にまとめる演習の時間を多くとった。″

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　23（92%）　　②いいえ：　1（4%）　　未回答：　1（4%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　19（76%）　　②６～10 回：　3（12%）　　③11～15 回：　1（4%）

未解答：2（8%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　8（32%）　　②政治・経済・産業：　15（60%）　　③自然環境・フィールド体験：　8（32%）

④その他：6（24%）・・・「獣医療」「（言語）景観」「就職に関すること」「宮崎県の特別支援教育について」「テーマは学生に選択させたので、分野は様々です。」「学生自身が生活する地域を知ってもらうために、「生活」という側面から取り上げた。」　　未回答:　2（8%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　16 クラス（順不同）

[1] 宮崎の農業に関する話題や学生の出身県での事例を元に，今後の農業のあり方を議論することができた。

[2] 本講義では本学科の専門分野に関連の深い地域の農林業や自然環境を題材に、ディベートに取り組んでいる。班ごとに分かれ、アクティブラーニング手法により各種情報を収集して論理を構築する中で、地域についての理解を同時に深めるような工夫がされている。

[3] 宮崎県の農林水産業をテーマにして、調査をしてもらい、班ごとに発表会を行った。また、この内容はパラグラフライティングの題材としても活用し、テーマ設定から発表さらにレポートの基礎的な技術を学ばせた。

[4] 日本で初めてシロチョウザメのキャビアの生産を成功させた実地見学（宮崎県水産試験場小林分場）を行った。

[5] 宮崎県の農業，畜産業，自然環境などについて，現状の把握と今後の発展や維持について考えるような内容の授業を行った。

[6] 特色ある活動は行っておりませんが、獣医療における宮崎県の問題点を題材に、意見や解決策を討論しました。

[7] 地域にある多言語の表示・看板・標識を探して、みんなに発表する。

次には、それらについて、他地域と比較した。″

[8] 各グループごとに自ら設定した課題について文献・ヒアリング等を通じて調査研究し、発表した。

[9] 特色と言えるかどうかは、提出した講義資料ファイルでご判断いただければと思います。

＊特色ではありませんが、「地域」を取り上げるのは後期が良くないでしょうか？　前期は、「地域」という具体的な枠組みに入る準備として、高校とは違った、大学での勉強の仕方、思考の仕方について、各先生が得意とし、専攻の前段階にかなった内容を提供して、学生たちが基礎をしっかり身につけることが優先されるかと思いますので。″

[10] 地理的調査法に関する内容の部分で、学生が能動的に調査をするための能力育成をはかり、宮崎などの地域教材を活用

している。

[11] 宮崎県の教員採用試験の平均倍率は、日本で上位にあることを学生に紹介した上で、4 年次における教員採用試験に向けた取り組みを考えさせみた。その結果、「子どもや生徒との触れ合いを積極的に取り組んでいきたい」と答える学生が多かった。残念ながら、学力を向上させる路線では、だれも策を講じていなかった。それゆえ、普段の講義で、教員採用試験の過去問を取り扱う場面を多くする必要を感じた。

[12] 宮崎県立芸術劇場における施設見学。宮崎国際音楽祭の概要についての学習。

[13] 地域の課題を含めた課題解決策を考え、プレゼンテーションするグループワークを実施した。

[14] 県統計資料の利用、市内のゴミのポイ捨て条例違反状況の調査など。

[15] 「将来地域社会（宮崎県又は日本）に貢献できるロボット」という論文トピックに基づき、

①高齢者（又は障害者）を対象とする福祉ロボットの位置付けと新たな福祉ロボットの提案

②農業分野におけるロボット技術の現状と新たな農業ロボットの提案

③環境監視又は調査活動を行うロボットの現況と新たな環境用ロボットの提案

①～③の内１つを選んで資料調査、地域問題の発見をし、これらをまとめロボットを用いた解決手法を提案し、論文としてまとめた。また、グループディスカッション及び発表を授業中に行った。 ″

[16] １）次のような検索の課題を与えた.

問題

****

１ 日本人名大辞典で宮崎県の偉人，石井十次を調べどのような人物かを 100 字以内で記述せよ.

２ 「宮日データベース」の中で「石井十次」を検索し，2014／3／30 付け宮日新聞のコラム「くろしお」のタイトルを調べよ.

３ 西南戦争のとき西郷隆盛が宮崎県内を通ったルートを知りたい．国立国会図書館サーチで参考文献を探し，3 件列記せよ.

４ 森鴎外の作品で宮崎県清武町出身の学者，安井息軒が登場する小説の題名はなんというか．作品の最後の三つの文を記述せよ.

５ 慈恵医科大の創始者で宮崎県出身の高木兼寛（たかき かねひろ）に関する本の学内図書館所蔵分を検索し，何件あるかを書け．参考文献として一つ選び，正しい書式で引用元を明記せよ.

６ 作家，武者小路実篤の行った「新しき村」とはどのようなものか？世界大百科事典で調べて 200 字以内で要約せよ．5W1H に留意せよ.

７ 菅沼龍夫（すがぬま　たつお）宮崎大学長の最近の論文を SCOPUS（国際誌）で調べ，正しい書式で引用元を明記せよ．（1 件だけでよい）

****

２）次の課題でグループ毎に調べ，レポートをまとめ，パワーポイントによる発表をさせた．その過程で，ピアレビュー，検索などを実習させた.

課題：地域に暮らすしあわせとは：統計指標から他都道府県と比較検討する″